

令和 4 年 6 月 6 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H05579

研究課題名（和文）アスベストで急増する胸膜中皮腫に関する患者と家族のQOLを高めるケアガイドライン

研究課題名（英文）Development of care guideline that improve the Quality of Life of people with mesothelioma and thier family

研究代表者

長松 康子（NAGAMATSU, Yasuko）

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・准教授

研究者番号：80286707

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,700,000円

研究成果の概要（和文）：遺族への調査結果は、胸膜中皮腫患者は終末期の生活の質（QOL）ががん患者に比べて著しく低く、終末期ケアの質も悪いことが示された。QOLの関連要因は、増悪時のケア不満、女性遺族、予測より早い患者の死であった。また、遺族の複雑性悲嘆（PCG）の割合ががん患者に比べて多く、複雑性悲嘆の関連要因は、発症による経済負担、石綿健康被害救済未補償、外科療法、増悪時のケア不満足であった。これらの結果から、とくに抗がん治療終了後ケアが十分であると胸膜中皮腫患者と家族のQOLが妨げられると考えられたことから、看護師の主導で多職種と連携して、心身のケアを提供する「中皮腫包括ABCケアガイド」を開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アスベストで起こる悪性疾患である胸膜中皮腫患者は、ターミナル期の症状コントロールが十分に出来ておらず、遺族は患者の死後も長く悲しみにくれる。これは、中皮腫患者と家族が十分なケアを受けられていないことが関連していたので、看護師が中心となって、様々な専門職や患者・家族支援団体と協力して、途切れなくケアを提供するための「看護師向けABCケアガイド」を開発した。

研究成果の概要（英文）：Survey on the bereaved family members of the malignant pleural mesothelioma (MPM) showed that the Quality of Life (QOL) of the MPM patients were significantly lower than those of the cancer patients. The QOL in MPM was related to the dissatisfaction of care when the patient became critical, received surgery, female bereaved family, and the patient died sooner than expected. The quality of end-of-life in MPM was significantly poorer than those of the cancer. The rate of possible complicated grief was higher in MPM than cancer. The bereaved family members who were not satisfied the care when the patients became critical and angrier against asbestos, and felt that patient died sooner than expected had higher risk of complicated grief. The result of the survey indicated the fragmented care impaired the QOL of patients as well as family members. To provide the comprehensive care for MPM patients and their family members, MPM comprehensive ABC care guide was developed.

研究分野：国際看護

キーワード：アスベスト 石綿 中皮腫 QOL グリーフ 緩和ケア 家族 悪性腫瘍

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

胸膜中皮腫は、アスベストによっておこる難治性の悪性疾患で、進行が早く、重篤な症状を生じる。我が国においては毎年1600人が死亡し、その数は増加傾向にある。胸膜中皮腫患者とその家族は、心身の苦しみを抱えて多様なケアニーズを抱える。しかしながら、先行研究は、中皮腫治療を提供できる医療機関が少ないこと、発症から死亡までの予後が短いこと、希少がんであることなどから、十分なケアが提供されていない可能性を示唆している。胸膜中皮腫患者と家族を支援するためのケアの推進が求められる。

### 2. 研究の目的

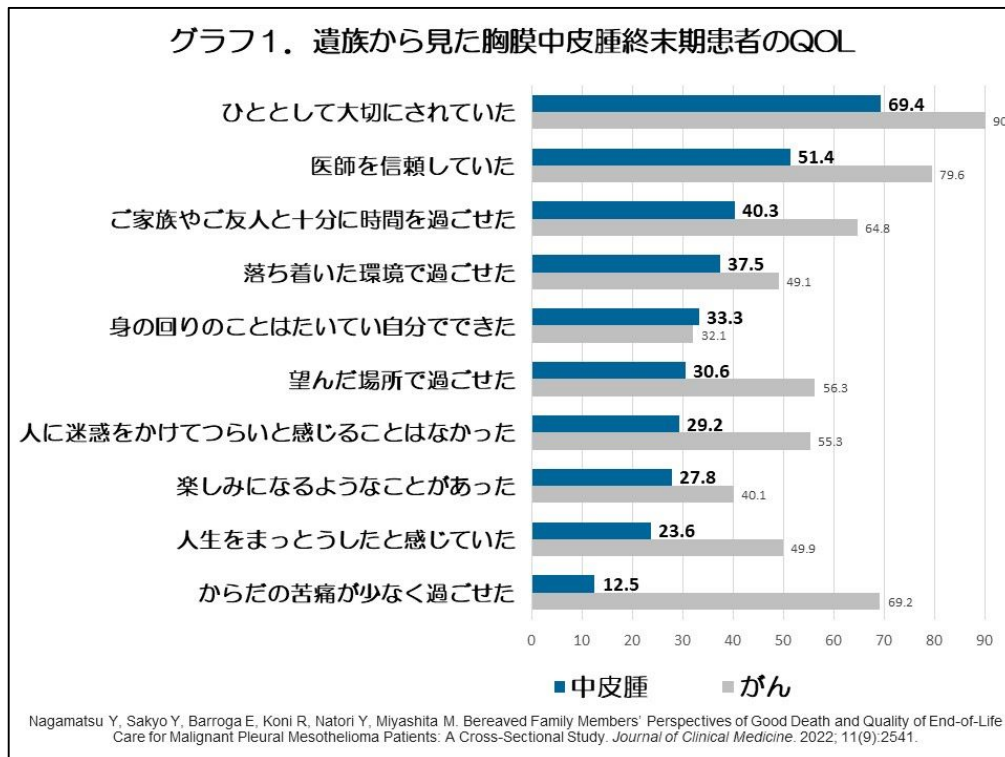
本研究は、悪性胸膜患者と家族のQOLを高めるケアを看護師が提供するためのケアガイドを開発することを目的とする。

### 3. 研究の方法

これまでに実施された我が国の胸膜中皮腫患者を対象とした調査では、終末期患者の回答が少なかったことから、終末期の患者のケアニーズは未明である。また、有害物質によって家族が悪性疾患を発症した家族もまた苦しむにもかかわらず、家族や遺族を対象とした調査はなかった。そこで、遺族を対象に、胸膜中皮腫患者の終末期のQOLと、遺族自身のうつと複雑性悲嘆について質問紙調査を行った。

### 4. 研究成果

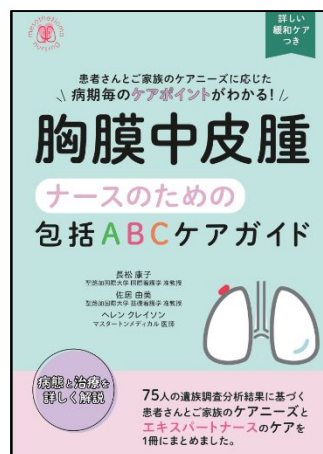
遺族への調査は、終末期の胸膜中皮腫患者のQOL(生活の質)が、がん患者のそれと比べて著しく悪いことを示した(グラフ1)。さらに、胸膜中皮腫患者が受けた終末期ケアの質もがん患者のそれと比べて悪かった。終末期の胸膜中皮腫患者のQOLに関連していた要因は、増悪時のケアへの不満、女性遺族、予測より早い患者の死であった。



また、胸膜中皮腫患者は遺族の複雑性悲嘆の可能性のある者(PCG)の割合が72.2%に上り、がん患者に比べて多かった。複雑性悲嘆の関連要因は、発症による経済負担、石綿健康被害救済未補償、外科法、増悪時のケア不満であった。終末期のケアの質は、胸膜中皮腫患者のQOLと強く関連していた。この研究成果は、国際的医学ジャーナルであるMDPI *Journal of Clinical Medicine* に原著論文として掲載された。

これらの結果より、増悪時にケアが適切に提供されないために胸膜中皮腫患者と家族の QOL が妨げられていることが大きな課題であることが示された。この背景には、胸膜中皮腫の治療ができる医療機関が限られていることから、中皮腫の治療が終了すると自宅に近い病院に転院するため、ケアが途切れがちである現状が関連しているものと推察された。また、悲嘆が長引く遺族が多かったことから、遺族にはグリーフケアが必要であることなどが明らかになった。

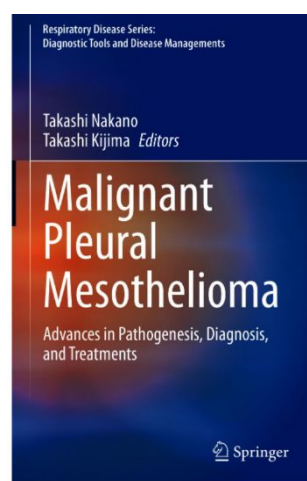
そこで、看護師の主導で多職種と連携して、発症からお看取り後まで途切れることなく心身のケアを提供する「中皮腫包括 ABC ケアガイド」を開発した。ケアガイドは、病期ごとに胸膜中皮腫患者とその家族の直面する困難を示し、看護師が行うべきケアをわかりやすく示した。



I 看護師向け胸膜中皮腫包括ABCケアガイド						
看護師向け胸膜中皮腫包括ABCケアガイド						
病期	診断期	入院がん治療期	過院がん治療期	がん治療中止・増悪期	ターミナル期	看取り後
A アスベストによっておこる胸膜中皮腫患者さん	中皮腫診断のショック 困難な治療選択 病状についての様々な情報に翻弄される	副作用をコントロールしながら治療に望みをかける 術後の痛み、息切れ、動悸と生活様式の変更 病気の進行の恐怖	副作用をセルフケアしながら外来でがん治療を受ける 病気の進行の恐怖 急激に症状が進むことがある	がん治療の効果なくなる。 症状が少しずつ悪化 QOL が徐々に低下 不安が強まる 患者さん、ご家族間の意見の相違や、医師と患者との距離関係が強まることがある	急激な病気の進行 多様な症状の悪化 ケア提供の準備がないと良い死の達成が難しい ケアにより、死の数日前まで、自立で食事や排泄ができる	
ご家族	希少疾患ゆえの孤独、アスベストで病気になったことへの怒り、	ケアの負担、希少疾患ゆえの孤独、アスベストで病気になっ		補償申請が進まないこと打ち明け	たとへへの怒り、補償申請の負担	長引きやすい悲嘆
スタッフナース		パディナースと協働して		ベッドサイドでケアを行う		
B パディナース	診断後臨床 ・患者さんご家族の理解の確保 ・希望があれば主治医と相談してセカンドオピニオンを勧める ・心理状態のアセスメント ・アスベスト補償制度申請のすすめ ・患者・家族支援団体の案内	機会を見て、最期の迎え方に臨む準備をたずねる 主治医と相談し、緩和ケア医による症状アセスメントを依頼する。場合によっては在宅ケアを検討する 過院前臨床 ・今後起こりうる症状と対処法 ・過院後のケア提供医療機関の選定 ・過院時マリー作成とケアの引き継ぎ	外来受診時 ・患者さんご家族の心身状態のアセスメント ・機会を見て、最期の迎え方に関する意向をたずねる 増悪時の迅速なケア提供準備 がん治療中止時に主治医と相談して、地域の緩和ケア施設と在宅医療を調整する	在宅ケアを導入する。導入しない場合は、緊急時に受診できる医療機関を確保する 緩和ケアによる確実な症状コントロール 急変時への迅速な対応 どこで強と弱を認識したいかの確認と実践への準備 ご家族への支援	緩和ケアによる確実な症状コントロール ご家族への支援	グリーフケア ・うつ・悲嘆アセスメント(電話、対面) ・共感を示す 必要時認知行動療法を検討する 患者・家族支援団体を紹介する
C 心理専門家			認知行動療法 (CBT)	を用いた心理支援		
アスベスト被害者・家族支援団体			心理支援・家族支援、	補償申請支援		

また、本研究で開発した胸膜中皮腫包括 ABC ケアガイドをもとに、英語の医学書「胸膜中皮腫」の「胸膜中皮腫患者と家族への支援：臨床における看護師の役割」という章を執筆した。

中皮腫包括 ABC ケアガイドに基づき、中皮腫患者と家族を支援する団体と協力して 2019 年から胸膜中皮腫患者の遺族に対するグリーフケアの開催を開始した。これまでに 3 回のグリーフケアを開催し、のべ 32 名の遺族が参加した。



国際的な取り組みとしては、世界保健機関（WHO）、国際労働機関（ILO）、国際連合環境計画（UNDP）が共催し、オーストラリアのアスベスト疾患研究所（ADRI）が主催した「途上国の医療従事者向け中皮腫撲滅セミナー」に参加し、フィリピンとフィジーで「中皮腫患者と家族のケア」について講演を行った（写真2）。タイでも実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の流行により渡航が困難となったため、ADRIのオンライン教材 e-toolkit 開発に参加した。教材はADRIのホームページで公開されている。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Nagamatsu, Y., Sakyō, Y., Barroga, E., Koni, R., Natori, Y., & Miyashita, M.	4. 巻 11 (9)
2. 論文標題 Bereaved Family Members' Perspectives of Good Death and Quality of End-of-Life Care for Malignant Pleural Mesothelioma Patients: A Cross-Sectional Study.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Medicine	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/jcm11092541	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 4件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 長松康子
2. 発表標題 胸膜中皮腫患者の遺族からみた、終末期の患者のQOL
3. 学会等名 第9回JMIG研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐居由美、長松康子
2. 発表標題 患者遺族が受けた医師・看護師からの不快な言動～アスベスト関連疾患患者遺族へのアンケート結果から～
3. 学会等名 第23回 聖路加看護学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuko Nagamatsu
2. 発表標題 Nursing management in Japan
3. 学会等名 International thoracic oncology nursing forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 長松康子
2. 発表標題 中皮腫治療のいま
3. 学会等名 ジャパンキャンサーフォーラム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長松康子
2. 発表標題 中皮腫の看護
3. 学会等名 第5回石綿問題総合対策研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長松康子
2. 発表標題 胸膜中皮腫患者の遺族からみた終末期の患者のQOL
3. 学会等名 第9回日本石綿・中皮腫学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長松康子
2. 発表標題 英国における中皮腫ナースの働きと日本への導入
3. 学会等名 アスベスト被害の救済と根絶をめざす尼崎集会2020（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長松康子
2. 発表標題 アスベストに関する看護：健康被害撲滅と被害者の支援
3. 学会等名 みんなで考えるアスベスト疾患（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長松康子
2. 発表標題 アスベストがもたらす悪性胸膜中皮腫の患者と家族のQOLを維持する総合的ケアガイドの作成にむけて：いかに迅速に症状をコントロールし、いかに心の痛みを和らげるか
3. 学会等名 第35回日本がん看護学会学術集会 交流集会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Yasuko Nagamatsu	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 8
3. 書名 Supportive Care for Advanced Mesothelioma: What is the Role of Mesothelioma Nurses in Clinical Practice?. In: Nakano, T., Kijima, T. (eds) Malignant Pleural Mesothelioma. Respiratory Disease Series: Diagnostic Tools and Disease Managements. Springer, Singapore.	

1. 著者名 長松康子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 イーフォー	5. 総ページ数 32
3. 書名 胸膜中皮腫 ナースのための包括ABCケアガイド	

〔産業財産権〕

〔その他〕

毎日新聞 2020年令和2年3月9日 web版 「どこで吸い込んだのか……突如訪れる石綿関連死 悲しみ抱えた遺族に広がるグリーフケア」で、中皮腫患者向けのグリーフケア活動が掲載された。

毎日新聞 2020年令和2年9月27日兵庫阪神三田版26ページ 「石綿被害完全根絶を」クボタショック15年尼崎で宣言採択に胸膜中皮腫における緩和ケアの重要性に関する講演が掲載された。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	本城 由美 (佐居由美)  (HONJO Yumi)  (10297070)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・准教授    (32633)	
研究分担者	松田 毅  (MATSUDA Tsuyoshi)  (70222304)	神戸大学・人文学研究科・教授    (14501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オーストラリア	Asbestos Disease Research Institute	WHO Philippines	WHO Fiji	他3機関